

---

# SCP (Student Clinician Program) に参加して

---

## SCP (Student Clinician Program) について

新潟大学医歯学総合病院  
歯科総合診療部 魚島勝美



SCPをご存知ですか？  
昨年も歯学部ニュースに記事を書かせていただきましたので、既にご存知の方も多  
いかもしれませんが、歯学  
部の学生による臨床研究の  
発表会です。毎年1回、日

本歯科医師会主催で行われるもので、各歯科大学  
ないしは歯学部より代表1名（グループ）のみが  
参加を許されています。日本での開催は昨年で10  
回目になりましたが、ここ数年参加校数は20前後  
で推移しているようです（対象29校中）。我々新潟  
大学歯学部からは過去5回参加しており、とくに  
ここ3年間は連続で参加しています。第8回大会  
には第35期の熊谷君、有井君、揖斐君が、第9回  
大会（3位入賞）には同じく第35期中村君、斉  
藤君、長澤君が、第10回大会には第36期の築山君、  
蝦名君、本間君、高橋（佳）君、安達君がそれぞ  
れ参加しています。日本の大会で優勝するとアメ  
リカでの世界大会に招待されるという素晴らしい  
特典もついています。

各参加大学には学生のSCP参加をサポート  
するファカルティーアドバイザーという立場の教  
員が存在します。学生にとって研究活動に参加す  
ること、結果をまとめること、公の場でその成果  
を発表すること、いずれをとっても初めての経験  
です。ですから、それらに関するお手伝いをする  
教員が必要だろうと言うことです。具体的な研究  
活動の現場でのサポートのみならず、大会への参  
加登録を始めとする各種手続きに関するまとめ役  
も必要です。ですから、場合によっては複数のフ  
ァカルティーアドバイザーが存在することもあり

ます。第8回では私が両方を兼ねましたが、9回  
では豊里先生が実験の指導を、全体のとりまとめ  
を私がしましたし、10回では中澤先生が実験の指  
導を、全体のとりまとめを私がしました。また、  
過去に参加した石田先生の指導は江尻先生でした  
し、その石田先生自身もSCP普及活動に絶大な  
協力をしてきております。いずれにしても、  
ここで名前が出ていない方々を含めて多くの教員  
の献身的なご協力の下にSCPへの参加が本学  
で大きな流れになりつつあるのが現状です。

前述の通り、昨年の第10回大会には5名の学生  
諸君が参加しました。テーマは歯ブラシの除菌に  
関することで、詳しくは彼らの記事に譲りますが、  
研究テーマの発案から実行まで、中澤先生のご指  
導を得ながらとはいえ、自分達で成し遂げたこと  
は賞賛に値します。もちろん、彼らにとっては非  
常に意義のある経験であったと信じております。  
通常の講義、実習をこなしながらの実験や発表準  
備ですので、決して楽だとは言えません。実験や  
取りまとめに関する彼らの口論を横で聞いて、「逃  
げようか」と思ったことも実はありました。しか  
しながら、何ものにも代えがたい達成感、充実感、  
連帯感等が得られたことは間違いありません。も  
ちろん、やりたくない人に強制してもあまり良い  
ことはありません。残念ながら、私は過去に他大  
学ではそういった経験もしました。でも、少しで  
も興味があれば、少しでもやる気があるならば、  
是非参加を検討してみてください。学生諸君のやる  
気を求めます。

「かつての体育会系のみならず、熱い血  
潮が燃え滾る瞬間を味わってみませんか？」

連絡先：

石田陽子 (yishida@dent.niigata-u.ac.jp)

魚島勝美 (fish@dent.niigata-u.ac.jp)

## Student Clinician Program に参加して

歯学部5年 築山友紀



「いつか研究がしてみたい！」子供の頃から漠然と思っていた夢が叶ったのは2004年のことでした。学内に貼ってあるポスターや、講義の合間に先生が話して下さる話題などから学生自らが研究し、その成果を発表する Student Clinician Program (SCP) という大会の存在を知り、ぜひ私もやってみたいと思い、周りの友人たちを半ば無理やり引っ張り込んで研究が始まりました。例えるならば、まさに情熱の塊だった私達。とは言っても、実験のテーマや実験方法、結果の判定基準まで全てを自分達で決めて実行する研究は初めてで、当初は何をすればいいのか右も左もまったく分からない状態でした。春の寒空の下、リュートピアの桜の横で暗くなるまで研究テーマについて議論したこともありました。そんな暗中模索の中、よきアドバイザーや指導して下さる先生方にめぐり逢うことができ、研究は格段に現実味を帯び、着々と進行していきました。

昼間は講義やポリクリ(臨床予備実習)、夜は実験の二重生活の毎日。研究内容をめぐって共同研究者と喧々諤々とした議論と衝突を繰り返し、白熱のあまり机を叩いて「あれはこうだ！ それはああだ！」などと言い合うこともしばしばでした。



思うように実験が進まなくて土日・夏休みを返上したり、大学でNEXT21の脇から昇る朝日を見たこともありましたが、自分達のやりたいことを精一杯やることができ、体力的には辛かったものの、満ち足りた日々でした。今振り返ってみても、自信をもって SCP をやって良かったと思えます。

さて、何とか抄録と発表用原稿、パネルを書き上げ臨んだ8月25日の SCP 大会当日。市ヶ谷の新歯科医師会館で緊張しながらも英語で研究発表しました。周りの発表者に圧倒されつつも、自分なりに頑張っってスピーチしました。結果は、残念ながら入賞できませんでしたが、一般公開で多くの観客の支持を集め、高い評価を受けることができました。その後、10月に学部小会議室で2004年度の SCP 大会の報告会を行い、多くの先生や学部生にお集まりいただき、私達の研究内容および SCP がどんなものかを知っていただくことができました。こういった活動を通して、一人でも多くの方が SCP に興味をもって、SCP に参加してくれれば嬉しいと思います。私は、学生の間にこういった貴重な経験ができて本当に良かったと思いますし、この体験を通じて得たものはこれから歯科医師として歩む人生の中で大きな役割を果たしてくれるものだと思います。また、SCP を通してたくさんの素晴らしい人達に出会うことができ、本当に良かったと思います。SCP に興味のある方、積極的に手をあげてみて下さい。きっと何ものにも代えがたい素晴らしい経験ができることと思います。

最後になりましたが、ファカルティーアドバイ



ザーをなさってくださった魚島勝美教授、指導教官となってくださった中澤太助教授、いつも励ましてくださったサブ・ファカルティーアドバイザーの石田陽子先生、SCPのOB会組織・SCADA Japanの副会長の八幡誠先生、お世話になった細菌学教室の皆様、SCPのOB・OGの先輩方、私達を支援してくださった多くの皆様、ほんとうにありがとうございました。

共同研究者の安達大雅君、蝦名菜穂子さん、高橋佳男君、本間春菜さん、最後まで私に付き合ってくれてありがとう。これからも公私共によろしくお願いします。

